Freistaat Bayern
Repräsentanz Japan

invest in bavaria

バイエルン州 ビジネスニュース

第 2 号 | 2021年

トピックス

1. バイエルンのスマートシティ：未来志向の都市計画 → Page 1
2. 特別寄稿：初のミュンヘン開催となったIAAモビリティ → Page 2
3. バイエルン州は革新的なモノづくりの故郷 → Page 4
4. 5分間インタビュー → Page 5
KDDI Deutschland GmbH　宮崎　浩彰 マネージングディレクター
5. スタートアップを担う女性のためのキャリアプランと起業家精神 → Page 6

1. バイエルンのスマートシティ：未来志向の都市計画

デジタル化が進むと、個人や企業の日常が変化するだけでなく、都市活動全体が革新的な変化に対応して、ネットワークが強化されます。既にスマートホームが社会に受け入れられて、成功している今、バイエルン州の企業や業界団体、様々なイニシアティブは州政府と共同で、スマートシティ、将来の地域づくりに向けた新たなソリューションの開発に取り組んでいます。

スマートシティとは

デジタルネットワークを拡大するための不断の努力は、更にそのスピードを増しています。都市計画の中で、デジタル化は益々重要になっており、特に、効率化、最先端技術の効果的活用、環境問題、社会的包摂、モビリティ（移動手段）といった課題への取り組みが進められています。

スマートシティでは、都市生活の質の向上に焦点が当てられます。市中心部への車両進入制限により、大気の汚染状況が改善されることがモニタリングで明らかになっています。同時に、スマートライトで夜間の照明を賢くコントロールします。持続可能性、循環型経済、廃棄物処理の経済合理性なども考慮し、様々なコンセプトや技術が組み合わされたところに実現されるのがスマートシティです。その実現には、データの収集と分析が非常に重要な意味を持ちます。

パイロットプロジェクト：「スマートシティ＆スマートリージョン」

スマートシティ、つまり「賢い都市」の利点は多面的であり、また、都市のモダナイゼーションにおいて、デジタル化は一層加速しています。この変化は受動的にでなく、能動的なプラン作成と、その連携によって実行される必要があります。そのため、バイエルン州交通省は、「スマートシティ＆スマートリージョン」というプロジェクトを開始しました。このプロジェクトの実施場所として選ばれた州内の地方自治体は、交通省から研究や資金の援助を受け、それぞれの地域特性に応じたデジタル化戦略を策定します。この包括的なデジタル開発構想は、デジタル化によるポテンシャルの掘り起しと、その効果的な活用を目指すものです。

重点課題は、都市開発の発展と都市のモビリティです。このプロジェクトでは、行政の連携を改善することも課題の一つです。情報収集とデータ活用のために必要なネットワークの接続が拡張されることにより、時間とコストが削減され、地方自治体は効率的な行政を行うことができます。更に、市民がデジタル行政に関わり、個人が都市生活のデジタル化に結び付くことにより、自治体の魅力と生活の質が向上します。このプロジェクトには合計 36 件の応募があり、その中から以下の 12 自治体が選ばれました。

- **自治体間連携プロジェクト（6 都市）**
  デッゲンドルフ、フュッセン、ホーフハイム、イスマニング、マルクトロイテン、シュピーゲラウ
- **単独プロジェクト（6 都市）**
  ノイウルム、ノインブルク・フォルム・ヴァルト、ローゼンハイム、ミュンヘン、ニュルンベルク、レーゲンスブルク

観光客に人気のあるフュッセン市は、既に信号機のデジタル化やデジタルパーキング・システムといった交通システムの IT 化に取り組んでいます。製品やサービスの現状をオンタイムで把握することにより、供給状況を掲示したり、需要を効果的にコントロールしたりすることができます。保育園や学校、図書館のような教育施設のデジタル化は、市民にも有益です。フュッセン市には既に、市民が毎日 20 時間利用できる「オープン・ライブラリー」があります。

フィヒテル山地：デジタルソリューションによる持続可能性

ドイツ政府が行っている支援プログラム「スマートシティー・メイド・イン・ジャーマニー」の枠組みに基づき、バイエルン州オーバープファルツ郡フィヒテル山地は「スマートなフィヒテル山地」プロジェクトのための具体的なコンセプトをまとめました。パイロットプロジェクトを策定した 2019 年から 2021 年までを「戦略的段階」と位置づけ、次の「実践的段階」では 2027 年までにこれらを具体化します。持続可能なオーバープファルツ郡へと成長を遂げ、後に続く地域のモデルになることが目標です。重点分野は、経済、モビリティ、インフラ、観光と文化、健康、エネルギーと気候保全、教育、イメージアップ、ボランティア、自然と農業、行政、社会で、デジタル戦略を含む地域開発プランになっています。

フィヒテル山地全体の主要な課題をまとめるためのプラットフォームが立ち上げられ、市民や行政など、様々な関係者が関与しています。このプラットフォームから発展した専門家ワークショップでは、課題についてのディスカッションと、課題解決に向けた多数のアプローチが提示されました。重点分野の確認と評価が行われ、40 ものアイデアが文書化され、

原案として目に見える形で示されました。来年以降に始まる「実践的段階」で、具体的な取り組みが開始されます。

インゴルシュタット地域：アーバンエアモビリティ・イニシアティブ

モビリティはスマートシティの重要なファクターです。未来の都市モビリティを研究し、リアルな環境でテストできるよう、インゴルシュタット地域にアーバンエアモビリティ・イニシアティブ（Initiative Urban Air Mobility ＝ UAM）が誕生しました。このプロジェクトは EU からの支援を受け、都市間を結ぶ様々な飛行機体の活用を評価します。実践的な研究の成果に基づき、また、住民と産官学の連携により、現実的な条件のもとで安全・騒音・効果・経済性といった課題を掘り下げます。インゴルシュタット市の他、50 を超えるプロジェクトパートナー —例えば、エアバス、アウディ、リリウム、ミュンヘン空港、バイエルン州航空クラスター bavAIRia、バイエルン・イノベーティブ、そして大学やドイツ政府や州政府など— が参加しています。

自発的な連携がバイエルン州のスマートシティを前進

近代都市のための革新的なソリューションを必要としているのは、都市設計の場だけではありません。バイエルン州では多数の団体やネットワークが、自治体のモダナイゼーションのために活動しています。

ミュンヘン工科大学の起業支援センターである UnternehmerTUM は、ミュンヘン市と共同で「ミュンヘン・アーバン・コラボ」を立ち上げ、革新的なコンセプトの開発を進めています。新興企業、経済界、学術界、そしてミュンヘン市民が分野横断的に、学際的に協力し合い、特にスマートシティの分野で革新的ソリューションの開発に取り組んでいます。

バイエルン・イノベーティブ社が運営するプラットフォーム「スマートリージョン・バイエルン」では、既に存在するモデル地域のプロジェクトマップが見られます。この活動の中心には、都市・地域開発の専門家、官民のビジネス・コンサルタント、企業で地域との連携を担当する人達や市民代表、そして政治家の協力があります。各都市、自治体、郡、そしてバイエルン州全体にとって実りあるコンセプトを作成することを目指しています。

バイエルン州の未来のモビリティという観点からも、これらの連携は国際的な意味を持ちます。例えば、ミュンヘンにある「デンマーク・イノベーションセンター」では、グリーンモビリティをテーマに環境汚染物質の排出量を減らす取り組みを行っており、このセンターはデンマークとミュンヘンの革新的スタートアップ、企業、研究者の出会いの場になっています。

バンベルクにある「クリーンテック・イノベーション・パーク」は、革新的技術開発の拠点として、特にサステナビリティに力を入れています。将来的には、新しいアーバンモビリティーのための先端研究の場になる予定です。

インテリジェント・シティの重要なファクターはスタートアップ

様々なグループのネットワークに加え、スタートアップや革新的な企業がバイエルン州のスマートシティ開発を後押ししています。都市モビリティをメインテーマに、注目されているスタートアップを紹介します。

- ミュンヘンの**ソノ・モータース**は、太陽電池で動くスマート電気自動車とバスを作っています。乗り物本体が充電機能を持つため、環境に良いというだけでなく、充電ステーションも必要ありません。

- 空飛ぶタクシーで有名な**リリウム**は、常に発展し続けており、未来の都市モビリティを変化させる十分な可能性を持っています。7席を有する電気ジェット式の空飛ぶタクシーは、地上を走るタクシーと同等の料金になるとのことで、既に多くの投資家を引きつけています。垂直離着陸機であるこの機体は、交通渋滞や駐車場探しとも無縁です。

- ヴュルツブルクの**エムコプター**も同様に空域をターゲットとしていますが、人ではなく、貨物輸送がメインです。都市圏では、最長 2 キロまでのインテリジェント・ドローンによる配送が可能です。この自動運転のドローンで、都市部の配送による渋滞が軽減されるかもしれません。

- **[ui!] グループ**は世界中で事業を展開していますが、ミュンヘンにも支社があります。都市のデジタルトランスフォーメーションに対する明確なコンセプトを持ち、特にソフトウェア開発、都市インフラ、持続可能な都市モビリティに注力しています。スマートシティを目指す地域に協力しており、バイエルン州が助成しているアルゴイ地方の包括的なモビリティコンセプトの開発にも参加しています。

IAA：都市モビリティのための分野横断的プラットフォーム

都市と地方の持続可能な改革に向けた努力は、バイエルン州全体に見られます。新たな技術が都市を素通りすることはない、ということははっきりとしていますが、一方で、バイエルン州の多くの地方自治体もスマートシティを目指した開発に力を入れています。そのような中で世界最大規模のモーターショー IAA が、純粋な「自動車見本市」から「専門分野を包括する都市モビリティのためのプラットフォーム」へと発展を遂げました。フランクフルトからミュンヘンに場所を移した欧州最大のモーターショーでは、革新的なモビリティ・コンセプトが示されました。IAA のミュンヘンでの新たなスタートは、バイエルン州のスマートシティの将来にも大きく貢献するでしょう。

特別寄稿

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン　代表取締役　山賀 千晶

「初のミュンヘン開催となったIAAモビリティ」

2021年9月7日～12日、ドイツ自動車工業会（VDA）とメッセ・ミュンヘンとの共催によるIAA MOBILITY 2021が、ドイツ・ミュンヘンで開催されました。従来はフランクフルト国際モーターショーとして開催されてきましたが、今回から、開催地をフランクフルトからミュンヘンに移し、モビリティを追求するプラットフォームとい

© StMWi/A.Heddergott

う新しいコンセプトのもと、見本市名もIAAから IAA MOBILITY に変更されました。乗用車に加え、自転車、エネルギー政策、デジタルソリューション、都市型エアモビリティなど、モビリティ（移動手段）に関するあらゆる領域のテクノロジーを一堂に集めました。また、これまでのように、展示会場内での展示にとどまらず、ミュンヘン市内中心部の数カ所に屋外会場が設置され、製品の展示のほか、パネルディスカッションや講演も行われました。見本市会場と市内中心部会場とを結ぶ「Blue Lane」と名付けられた12ｋｍの道路で、電気自動車などを試乗できるようにしたことも新しい試みです。展示会場という閉鎖空間で一部の関係者だけが参加するものではなく、都市計画の重要な役割を担う一般の消費者も参加し、環境問題を含めて社会全体をより良い方向に変えていくための議論の場となりました。

「モビリティ」に関連する業界は多種多様な業種が存在する幅広い領域をカバーしていることから、新しいコンセプトに基づくIAA MOBILITYでは、多くのビジネスチャンスを得ることができます。「動く乗り物」としてのハードウェアだけではなく、それを制御し動かすソフトウェアや個別機能アプリ、環境に配慮した技術、自動バレーパーキングシステムや自動運転ソリューションを利用した「ロボタクシー」など、これまでの「車の見本市」には見られなかった業種からの出展も目立っていました。主催者は、今回の結果を早々に評価し、次回のIAA MOBILITY では、より多くの出展企業を迎え入れ、モビリティの今後について幅広く議論できるよう、計画の更なる充実を図る考えです。そのためにも革新的な技術力を持つ日本企業の参加が大いに期待されています。

IAA MOBILITY 2021は、新型コロナウイルスのパンデミック発生後にミュンヘンで開催された初めての大規模国際イベントでしたが、32カ国から744の出展社および936人のスピーカーの参加を得ました。会場はどこも活気に溢れ、バーチャルを含めた9日間の会期中に95カ国から40万人もの来訪があり、その数値からみても各業界からの注目度は高かったといえます。また、コロナ禍のもと、会場では、オープンスペースも含めて、入場時に、手荷物チェックに加えて、新型コロナワクチン接種証明書、回復証明書、陰性証明書のいずれかの提示と医療用マスク着用が義務付けられるという厳格な感染拡大防止措置がとられており、その対策は参加者の安心につながったものと思われます。

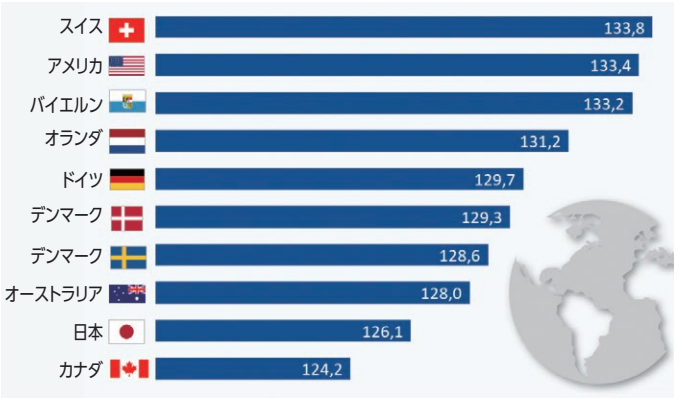
ミュンヘン市内では、ここ数年の間に、アプリがあれば誰でも簡単に利用できるシェア型の電動スクーター、バイクが目立ってきています。また、EV車のチャージング・ポイントもかなり増えています。都市間の移動には車は欠かせないものの、都市内や近距離の移動手段は確実にフレキシブルとなり、かつ多様化しています。コンパクトでありながらも、産業と観光においてドイツ有数の大都市であるミュンヘンは、新しいモビリティの可能性を生み出す最適な場所であることから、今後のモビリティについて総合的に議論できる場としてのIAA MOBILITYは、今後ミュンヘンで幅広く成長していくことは間違いないと実感しました。

パンデミック発生後、ほぼすべての見本市やイベントが中止または延期となり、IAA MOBILITYも1年延期されました。今年のIAA MOBILITYは、各業界にとっては待ちに待った国際見本市の再開でした。顧客やパートナーや消費者と直接会って、話して、議論できる国際的見本市を安全かつ盛大に開催できたとことは、IAA MOBILITY 2021があらゆる業界と社会に具体的な範例を示したという観点から、大きな成果であったと思います。

●今回の結果の詳細については、主催者のファイナルレポートをご参照ください。
https://messe-muenchen.jp/press/pdf2021/IAAMOBILITY2021_finalreport.pdf
●IAA MOBILITYの様子は、動画でもご覧になれます。
https://www.youtube.com/watch?v=J2qy0Utesv8

3. バイエルン州は革新的なモノづくりの故郷

ケルンのドイツ経済研究所の最新報告によると、バイエルン州は製造業界をリードする世界有数の地です。世界で活躍しているバイエルン州の老舗企業は、新興企業や研究機関と連携しています。それによってバイエルン州経済の中で第 3 位の地位にある製造業は、革新的なアイデアと最先端のノウハウ、10 年以上もの継続的な発展、そして安定感を持っています。これは正に、クロスインダストリー・イノベーションのために、そして将来性のある安定した雇用のために不可欠な最高のレシピです。



産業立地の世界ランキング（出典：ドイツ経済研究所）

国際的な産業立地としてのバイエルン州の価値

ドイツ経済研究所がバイエルン経済連盟の委託を受けて実施した産業立地に関する調査では、バイエルン州は他の４５地点との比較で総合 3 位にランクインしました。また、6 つの指標のうち、以下の 5 つの指標では、全てトップ 10 入りを果たしています。

- **州：**行政効率、汚職の取り締まり、行政の質、官僚機構
- **インフラストラクチャー：**公共インフラ、国際的な連携、物流システム、基本的な ICT インフラ
- **知識：**教育システム、革新的な環境、研究開発のための投資、特許出願件数、生産性
- **資源：**天然資源、エネルギー供給、産業クラスター、資本市場
- **市場：**市場規模、バリューチェーン、顧客志向

バイエルン州の製造業

バイエルン州には約 7600 の製造業者が存在し、およそ 130 万人の雇用が生み出されています。製造業は従業員割合で見ると、バイエルン州で 3 位の産業分野であり、州内産業の 20.5%の雇用が創出されています。また、バイエルン州経済省発行のバイエルン州産業レポートによれば、2019 年には製造業で 3820 億ユーロの利益が生み出されました。これは前年との比較で 1.5%の成長です。

「インダストリー 4.0」はバイエルン州の革新的製造業のキーワードです。ネットワーク、デジタル・インフラストラクチャー、スタートアップとの活発な交流、そして州内の多様な研究機関の存在は、バイエルン州の製造業にとってなくてはならないものです。バイエルン州の多様な技術や多くの創業支援施設も、クロスインダストリー・イノベーションを促進しています。

製造業におけるバイエルン州の大企業は、次の分野に集中しており、従業員割合もこれにならっています。

- 機械（17.8%）
- 自動車（15.5%）
- 食品・飼料（8.8%）
- 鉄鋼および電気（それぞれ 8.4%）
- IT システム・電子・光学（7.4%）
- ゴム・プラスチック（6.1%）
- 化学（4.3%）
- ガラス・陶磁器・石材加工（3.8%）

このように、バイエルン州の製造業の多くは、機械工学や自動車分野に集中しています。

製造業を引っ張るバイエルンの世界的企業

バイエルン州の製造業における重要な企業には、多くのグローバルプレイヤーが含まれています。2019 年は輸出が増加し、54.3%になりました。高い輸出力に貢献するバイエルン州のトップ企業を紹介します。

リンデ

- 分野：ガス設備に特化したエネルギーマネージメント
- 従業員数：全世界で 6.5 万人
- 所在地：ミュンヘン市

リンデグループの歴史は 19 世紀まで遡ります。創業当初はビール醸造所で使用される冷却機の製造が中心で、『リンデ製氷機株式会社』という名前でした。今日ではガスの生産設備を事業の中心としています。

BMW（ディンゴルフィング工場）

- 分野：自動車製造
- 従業員数：全世界で 12.5 万人（そのうち 1.75 万人はディンゴルフィング）
- 所在地：本社ミュンヘン市、ディンゴルフィング工場が最大拠点

BMW は世界で最もよく知られるバイエルン州の自動車メーカーであり、アウディやメルセデスなどと共に自動車産業の絶え間ない発展に貢献してきました。BMW スタートアップ・ガレージを立ち上げ、スタートアップに対して、実戦的なソリューションの開発に向けたプラットフォームを提供しています。BMW のディンゴルフィング工場はヨーロッパ最大の自動車工場で、年間約 34 万台が生産されます。

クロネス

- 分野：飲料・液体食品向けのコンポーネントや装置、工業機械製造
- 従業員数：全世界で 1.6 万人
- 所在地：レーゲンスブルク（ノイトラウブリング）

レーゲンスブルクの機械メーカー、クロネスは 1951 年に創業しました。創業当初はラベリングがメインでしたが、現在は IT インフラを整備した、飲料関連設備全般に関わる企業として知られています。オーダーメイドの提案から、開発、設計、現地での設営まで担います。ライフサイクルサービスでは IT 化によるデジタルソリューションに特に注力しています。

シェフラー

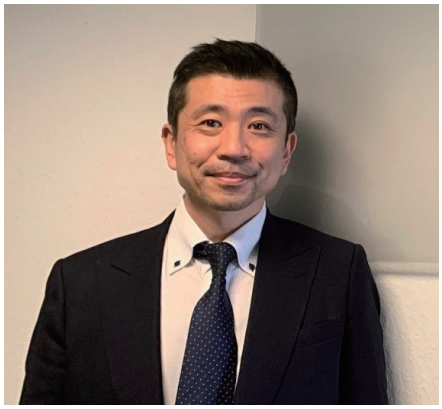
- 分野：ボールベアリングに特化した工業機械製造
- 従業員数：全世界で 8.77 万人
- 所在地：ヘルツォーゲンアウラッハ、シュヴァインフルト、バンベルク

1883 年、ボール研磨機からスタートしたシェフラーは、今ではあらゆるベアリングとクラッチシステムのリーディングメーカーです。ミッテルフランケン郡に本社を置き、自動車と機械産業を中心にサービスを提供しています。上記のドイツ国内 3 拠点のほか、ヨーロッパ、アジア、北米と南米に R&D センターがあります。

5分間インタビュー

KDDI Deutschland GmbH　宮崎　浩彰 マネージングディレクター

バイエルン州は、世界で最も重要な情報通信技術(ICT)拠点の一つです。その理由は、自動車、医療、金融など多くの産業分野にICTが必要だからです。バイエルン州はこれらの分野で特に強みを持っており、国内外のICT企業がバイエルン州を拠点として選んでいます。また、450社を超える日本企業が、顧客との距離が近いことを主な理由として、すでにバイエルン州に進出しています。日本のICT企業KDDI株式会社が、バイエルン州にドイツで3拠点目になる支社を開設した経緯と、コロナ禍の中でどのように拠点設立を実現したのか、KDDIドイツ社の宮崎浩彰氏に伺いました。



宮崎様、コロナが広がる中でミュンヘンにオフィスを開設することは、ドイツと日本での様々な規制を考えると、非常に大きな挑戦だったと思います。どのようにしてそれを実現したのでしょうか?

ミュンヘン出店は世界戦略上、今後の欧州ビジネスに於いて、数年前からの悲願でしたので、物件が見つかり次第ということで準備をしていました。コロナ禍がこれほど長期化し、生活や働き方が変わることは、それ以前おそらく誰も想定し得なかったことと思います。一方、コロナ禍により浸透したリモートワークのITテクノロジーのおかげで、弊社もミュンヘンをはじめ南ドイツのお客様と直接ご相談をさせて頂く機会がもてるようになったことが、ミュンヘン支店を開設する後押しになりました。またオフィス開設にあたり必要となる事前調査、営業登録手続き、オフィス選定、従業員の採用など、いずれもリモートのITテクノロジーを利用して実施できたことが大きいと思います。

KDDI Deutschland GmbHは、デュッセルドルフとフランクフルトに拠点があります。なぜミュンヘンに新しい事務所が必要だったのでしょうか?

ミュンヘンはデュッセルドルフに次いで多くの日系企業様が活動をされています。他方、日系のシステムインテグレーターがまだあまり多く存在してはおりません。

お客様からも、物理的に近くにいて、いつでもすぐに駆けつけてサポートをしてほしいというご要望を頂いており、それにお応えするための体制をつくりました。またミュンヘンにはドイツ最大手企業や多くのIT企業が集積し、スタートアップも盛んなことから、ローカル企業とコラボレーションし、最近増えているお客様のDXのニーズにお応えしていきたいと考えています。

コロナ危機は、経済の多くの分野で莫大なビジネス上の損失をもたらしました。一般的にIT業界はどのような状況でしたか?コロナの危機を乗り越えるために、どのような戦略をとったのでしょうか

一般的には新しい投資やプロジェクトの延伸を検討されるお客様が多く、IT業界も厳しい状況です。一方、ITをつかった働き方・業務改革を抜本から見直したいというご相談が増えており、弊社としては従来のITサポートに加え、今後お客様の本業に貢献できるDXの取り組みを推進して参りたいと考えております。

日本のお客様とヨーロッパのお客様とはどういったところが違いますか?日本のお客様に対して、特に気をつけていることは何ですか?

お客様によって体制や文化が様々ですので、お客様企業の国籍にかかわらず、常に言語・企業文化・コミュニケーションの仕方・時差などに配慮し、最大限お客様を尊重するように心がけております。また加えて、日本のお客様に対しては、日本本社の基準でのチェック項目などがございますので、それに準拠するようにしております。

御社の強みは何ですか?競合他社との差別化はどのようにして図っていますか?

オフィスの引越しや、インターネット、パソコン、サーバー、セキュリティ、クラウド、業務自動化ロボット、IoTなど、幅広いサービスを取り扱っていることと、日本語とドイツ語での営業・技術対応を当地ドイツで30年以上にわたり継続している実績が強みと考えております。またKDDIグループとして、ドイツ、イギリス、フランスには自社データセンターや、世界中にKDDIグループの拠点がございますので、お客様の海外拠点との連携も可能でございます。

次の目標は何ですか?どのようなことを次に達成したいとお考えですか?

2021年度はミュンヘンの日系企業様と、まずはオンラインのワークショップ開催なども含め、色々なかたちでお話ができたらと考えております。2021年上期に10件のDX案件でお客様に貢献することを目標にしております。その次に、東欧エリアのお客様のサポートも強化したいと考えております。

オフィス開設にあたってインベスト・イン・ババリアがサポートさせていただきましたが、それについてご紹介いただけますか。

インベスト・イン・ババリア様には、支店開設の相談に乗って頂くところから、オフィスが決まるまでサポート頂き、大変お世話になり、ありがとうございました。実は現在のオフィスは、コロナ禍で現地視察が難しかったため、インベスト・イン・ババリア様のご提案でオンライン視察をして決まったのですが、おかげさまで私達も気に入ったオフィスに決めることができました。

最後に、これまでのバイエルンでの生活で最も気に入っていることをお聞きしたいと思います。バイエルンでお勧めの観光スポットがありましたら教えてください。

ミュンヘンは街中にも緑が多く景観がきれいなところが気に入っています。先日、イザール川沿いの「英国庭園」の波乗りスポットEisbachwelle（アイスバッハヴェレ）を訪れた際、4月にも関わらず雪が舞うなか、寒さをものともせずサーフィンに明け暮れる猛者たちに圧倒されました。コロナが明けたら、世界的にも有名なオクトーバーフェスト、クリスマスマーケットなどの季節の風物や、自動車博物館、長い歴史を感じられる城・宮殿など、行ってみたいと思います。

宮崎様、お忙しいところ、インタビューにご協力いただき、まことにありがとうございました。

5. スタートアップを担う女性のためのキャリアプランと起業家精神

ドイツのスタートアップでも、女性創業者はそれほど多くありません。ドイツ連邦スタートアップ企業家協会の「女性創業者モニター」調査で、2020 年のスタートアップ企業の設立者のうち、15.7%が女性で、女性起業家は増える傾向にあります。また、バイエルン州には、起業しようとする女性を積極的に支援したいと考える多くの組織や、成功を収めている女性起業家たちがいます。バイエルン州にはどのようなネットワークがあり、どのような女性起業家がいるのでしょうか。

もっと女性の力を－女性起業家支援イニシアティブ

特に技術系スタートアップの女性起業家は少数です。将来を期待される才能があっても、起業を考えていない、あるいはどのようにしてスタートアップを成功させたらいいか分からない、ということがあります。この潜在的な女性起業家たちのプランやアイデアを支援するためのイニシアティブがあります。ミュンヘン工科大学から発足した UnternehmerTUM による女性スタートアップ支援や、創業センター WEK1 による "One Mission" プロジェクトなどです。このようなイニシアティブでは、刺激を与えてくれる女性起業家との出会いの場、例えばネットワークイベントやワークショップなどで意見交換をする機会を提供しています。助言を与え、支援してくれる女性指導者たちとの多様なコミュニティがあります。バイエルン州の女性起業家を後押しするために、様々な支援策やイベントが用意されています。

- コーチングと女性のためのメンタリングプログラム
- 女性投資家ネットワークへのアクセス
- 企業でのピッチイベントとトレーニング
- 成功した女性起業家とのトークフォーマット
- 資金調達のためのワークショップ

WERK1 は "One Mission" プロジェクトで、スタートアップにおける性の多様性（ジェンダー・ダイバーシティ）のリーダーシップをとり、女性起業家の比率を WERK1 内で 2025 年までに 35%まで引きあげることを目標にしています。マーレネ・エーデル、ヴァネッサ・プロヴェンツァーノ、マイク・ヴルストホーンの 3 人の女性がスタートアップのマネージメント、イベントやサービスのプランニングなどを組み合わせてプロジェクトを進めています。

● WERK1について：https://en.werk1.com/

ドイツのスタートアップ・エコシステムのために不可欠な女性の力

前述の「女性創業者モニター」は、ドイツにおける女性のスタートアップ起業家の重要性を示し、ドイツのスタートアップ・エコシステムにおける女性の地位についての認識を深めることを目指しています。女性の起業家は、必要なリソースや潜在的な投資家へのアクセス、あるいは拡大期の資金援助を受けることが難しいとされています。この調査で、女性が持続可能で社会的なモデルの構築、医療や教育の改革促進を重視し、経済活動と社会活動の重要な架け橋となっていることが明らかになりました。

女性起業家の存在をアピール

米コンサルティング会社マッキンゼーとドイツ経済誌大手ハンデルスブラットは、2019 年に創設した「フィーメル・ファウンダー・アワード」で、技術系スタートアップを起業した女性の功績をたたえています。2020 年には新たにデジタル部門賞が加わり、デジタル業界の先駆者となっている女性起業家を紹介しています。賞のファイナリストには、ヴェクトフロウ社のカタリーナ・クライツ、イノサビ社のカタリーナ・ヴァン・デルデンなどがいます。また、ミュンヘン市でも、女性起業家のモデルとなる女性を紹介することで、後に続く女性たちを勇気づける取り組みを行っています。

●「フィーメル・ファウンダー・アワード」について：
https://award.handelsblatt.com/the-spark/en/female-founder/

女性のためのキャリアプランニング

2018 年の "herCAREER" イベントの女性来場者の約 33% は、将来起業したいと思っています。"herCAREER" は女性のキャリア形成に重要なイベントとなっており、その分野の専門家らと意見交換する機会を提供しています。人的ネットワークを広げるためのコミュニティの場や、スキルアップ、雇用市場、資金調達の情報を提供し、起業に関心のある女性を応援しています。今年 9 月にミュンヘンで開催された "herCAREER" は、バイエルン州で高い目標を持つ女性起業家の精神を反映するイベントになりました。来場者や後援者、主催団体も多様で、新入社員から既に起業した人まで、同じ目標を抱いて、それぞれのネットワークを広げることができました。バイエルン州のクロスインダストリー・イノベーションを実現するイベントでした。

● herCAREERについて：https://www.her-career.com/en/

<バイエルン州駐日代表部について>

バイエルン州駐日代表部は1988年に日本（東京）に設立されたドイツ・バイエルン州経済運輸技術省の日本代表事務所です。日本企業のバイエルン州への企業進出（現地法人や駐在員事務所の設立など）や、貿易取引のビジネスパートナーとしてのバイエルン企業探しなどに関し、詳細な情報、豊富な実務経験に基づくアドバイスを無料で提供しています。関心をお持ちの方はお気軽にご相談ください。

バイエルン州駐日代表部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-1
オランダヒルズ森タワー ROP 801
TEL : (03) 6809-1416
FAX : (03) 3433-1552
E-MAIL: BAYERN@BAYERN-JAPAN.ORG
HP: WWW.INVEST-IN-BAVARIA.JP
WWW.BAVARIAWORLDWIDE.DE/JAPAN

代表
Dr.クリスティアン・ゲルティンガー

プロジェクトマネージャー
田山　野恵